

損益分岐点計算方法 完全ガイド

 Money Forward クラウド

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2026年3月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

損益分岐点の計算式

損益分岐点の基本の計算式は以下の通りです。

$$\cdot \text{損益分岐点売上高} = \text{固定費} \div \text{限界利益率}$$

$$\cdot \text{損益分岐点売上高} = \text{固定費} \div (\text{限界利益} \div \text{売上高})$$

$$\cdot \text{損益分岐点売上高} = \text{固定費} \div \{ (\text{売上高} \div \text{変動費}) \div \text{売上高} \}$$

上記の計算式に含まれている「限界利益率」は「限界利益 \div 売上高」で算出し、「限界利益」は「売上高 $-$ 変動費」で算出します。

また、損益分岐点売上高を算出する際の「固定費」や「変動費」に関しては、以下のような考えで区分します。

項目	内容	具体例
変動費	売上に連動して増減する費用	原材料費、外注費、運送費、販売手数料
固定費	売上に関わらず発生する費用	地代家賃、人件費、減価償却費、リース料

損益分岐点グラフの作成方法

1. グラフのもとになるデータを作成する

	(単位：万円)	
	売上高の最小値	売上高の最大値
売上高	0	10,000
変動費 + 固定費	2,000	5,000
固定費	2,000	2,000

エクセルで売上高の最小値と売上高の最大値の表を作ります。

赤枠の中に数字を入れていきます。

売上高が最小値（0）の時、変動費は発生しないと考えられますので、固定費の額をそのまま「変動費+固定費」の額に持っていきます。

売上高の最大値について例えば1年を基準に売上高が一番高い月の売上金額を入力。

売上の最も高い月を参考に、変動費をプラスします。（固定費はそのままです。）

売上の最小値と売上高の最大値を入力すれば、損益分岐点のグラフの準備は完了です。

2. グラフを選択する

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

	B	C	D
			(単位：万円)
		売上高の最小値	売上高の最大値
売上高		0	10.0
変動費+固定費		2,000	7.0
固定費		2,000	2.0

The 'Insert' dialog box is open, showing the 'Chart Wizard' options. The 'Area' chart type is selected. The 'Area' chart is highlighted in the 'Chart Wizard' window, and the 'Area' chart is selected in the 'Chart Wizard' window.

グラフにする表の範囲を指定します。（この場合B3:D6が範囲です。）

エクセル上部のタブ [挿入] をクリック。

真ん中あたりにある [グラフ] の右下の矢印をクリック。

グラフの挿入画面が拡大で表示されます。

上部のタブから [すべてのグラフ] をクリックし、上から5番目の [面] をクリック。

すべての数値が積み重なるように表示される、画面上では右側のグラフを選択します。

3. グラフを調整する



OKボタンをクリックするとエクセルにグラフが挿入されます。

そのままでは見にくいので調整していきましょう。（今回は、売上高と変動費+固定の塗りつぶしを透明化、固定費をパターンの塗りつぶしに調整し、グラフタイトルを「損益分岐点」に変更しました。）

好みに合わせてグラフを調整すれば、損益分岐点のグラフの完成です。一度作成してしまえば、表の値を変えることでグラフに反映されるようになるので、フォーマット代わりにもなります。

損益計算書を利用して、変動費や固定費を自動で反映するようにしたい場合は、データをエクセルの別シートに入れて、画像の表部分にデータをもってくるように関数を入れることで自動的に反映させることも可能です。グラフの作成がうまくいかない場合は、無料のテンプレートなどもありますので、活用してみるのも良いでしょう。

なお、上記のような損益分岐点のグラフの作成は、グラフ機能の備わった表計算ソフトであれば基本的に作成できます。エクセルがない場合は、グラフ機能のあるほかの表計算ソフトで代用しても問題ありません。

損益分岐点による経営分析

損益分岐点を用いることで、自社の収益構造を客観的に評価できます。

・赤字・黒字の判定

売上高が損益分岐点を下回っているか、上回っているかで判定

・収益構造の把握

人件費や賃貸料などの固定費が高い企業は損益分岐点が高くなりやすく、リスクを伴う

・目標売上の設定

目標とする利益を得るために必要な「目標利益達成売上高」を算出

収益改善に向けた損益分岐点の下げのための考え方

利益を確保しやすい体質にするには、損益分岐点を引き下げる施策が有効です。

1.変動費の削減

仕入原価の見直しや、DX（デジタルトランスフォーメーション）による工程の効率化で限界利益率を高める。

2.固定費の削減

地代家賃の交渉やテレワーク活用によるオフィス縮小、サブスクリプション型の固定費見直し。※人件費の削減は人材流出リスクを伴うため、慎重な判断が必要です。

3.販売単価の向上

高付加価値化による単価アップを行い、少ない販売数で利益が出る構造へ転換する。